10解釈と鑑賞

俳句

Ａ　こがらしや雲吹き落とす海のはて

Ｂ　ひとりひつそり竹の子竹になる

Ｃ　にがひなの照らさるる 山口

Ｄ　兄妹に母の文ふ　　 石田

Ｅ　をりとりてはらりとおもきすすきかな

問１　次の項目に該当する俳句をそれぞれ選び、記号で答えよ。

①　Ａの俳句と同じ季節の句。　　 （　　　）

②　自由律の句。　 （　　　）

③　切れ字で上の句で切れている句。（　　　）

問２　次の短評に該当する俳句をそれぞれ選び、記号で答えよ。

①　闇の中に浮かび上がった瞬間の白さ。　 （　　　）

②　しなやかさの中に、手ごたえが伝わった時の感動。（　　　）

③　広大な天地の間をみたす、もの寂しさ。　　 （　　　）

④　みずみずしい生命力を詠む。　 （　　　）

＊語注

＊かひな…「うで」の古い言い方。

短歌

　　のⓐこゑしづくのごとくあけがたの

　　　　夢をⓑとほりきめてⓒおもへば　　　 （『の光』）

　蟬はほんとうに多くの歌人がっています。それだけ日本人の生活に密着した昆虫なのでしょう。

　この歌では、夏の真昼間に鳴く蟬とは違い、［　　Ⅰ　　］に鳴いている蟬です。朝、目が覚めてからおもい出すと、その声はまるで［　Ⅱ　］のなかで鳴いていたようにおもわれた、というのです。「夢をとほりき」という表現が［　 　Ⅲ　 　］と呼応して、美しい空間を想像させます。

（ の文による）

問１　――線部ⓐ～ⓒをそれぞれ現代かなづかいに改めよ。

ⓐ＝（　　 　　　）　　ⓑ＝（　　 　　　）　　ⓒ＝（　　　　　）

問２　［　］Ⅰ・Ⅱに入ることばをそれぞれ歌中から抜き出して答えよ。

Ⅰ＝〔　　　　　　　〕　Ⅱ＝〔　　　　　〕

問３　［　］Ⅲに入ることばとして、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　一筋の蟬の鳴き声　　イ　生き残った蟬の鳴き声

ウ　群れつどう鳴き声　　エ　たくましい蟬の鳴き声

問４　冒頭の短歌は何句切れか。漢数字で答えよ。

（　　　）

問５　冒頭の短歌に使われている技法を次から二つ選び、記号を○で囲め。

ア　擬人法　　イ　直喩　　ウ　隠喩　　エ　倒置法

【解答】

〈俳句〉

問１　①Ｄ　②Ｂ　③Ａ

問２　①Ｃ　②Ｅ　③Ａ　④Ｂ

〈短歌〉

問１　ⓐこえ　ⓑとおりき　ⓒおもえば

問２　Ⅰ＝あけがた　Ⅱ＝夢

問３　ア

問４　四

問５　イ・エ

ポイント

〈俳句〉

問１　①Ａ「こがらし」（冬）と同じ季節の句は、「隙間風」のＤ。

　　　②五七五の定型にこだわらないのが自由律の句。

　　　③「こがらしや」の「や」が切れ字。

〈短歌〉

問４･問５　「醒めておもへば、夢をとほりき」が倒置された、四句切れの歌。